医師会長エッセイ

ポラリスを仰ぐ北の大地から

まずは2030年

江別医師会 会長　笹浪（ささなみ）　哲雄（てつお）

「この階段が上がれなくなったらやめる時だな」11年前、60歳手前で、クリニックを新築移転した時に抱いた気持ちだった。階段は２階の院長室に行くもので、既に、手すりがついていた。暇なときは、日に何度も上り下りをして､適度な運動になっている。

開業以来30年を超え、毎日のマイカー通勤も苦痛なく､一人の時間を楽しんでいる。ちなみに、交通事故は２度あった。１度目は、テカテカ冬道の羊ケ丘通りで、信号待ちしていたベンツにぶつかることを避けて、街路灯にぶつかり助けてもらった。２度目は、国道12号線で、冬のでこぼこ道の中、スピードを出した対向車が、反対車線に飛び込んできて接触。ハンドルを切って避けようとして私の車も反対車線に。後続車が左側面に衝突。エアバッグが満開で、車は２か月入院した。交感神経が興奮して血圧が上昇したが、体は大丈夫だった。

江別の先生方も札幌から通勤している方が多いので、くれぐれもご注意を。

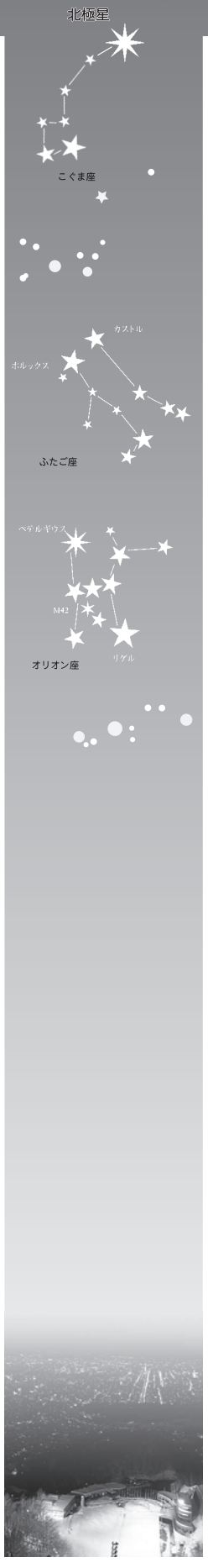
さて、貴重な症例を経験したお話。もう20年くらい前になるだろうか。私の表現としては､「見たことのない胃袋」である。70歳代の男性。胃粘膜すべてが発赤肥厚しており、数箇所を生検検査したが、病理報告ははっきりしなかった。江別市立病院にお願いしたところ､『クロンクハイト・カナダ症候群』の診断であった。

この疾患は、1955年に初めて報告されてから、近年までに世界で500例ほど。

胃や大腸にポリープが無数に生じ、脱毛、爪の萎縮、皮膚の色素沈着などの皮膚症状がみられる。診断時の平均年齢は63.5歳で、男性が女性の1.84倍多い。

原因は不明で、指定難病になっている。診断後どのように経過されたのかは不明ですが、この方の内視鏡画像を、忘れることはない。

誌面が残っているので、貴重な体験をもうひとつ。最近の女子ゴルフトーナメントで、ホールインワン賞金1,000万円が出た。すごいですね。私も2009年５月４日にホールインワンを体験した。元の廣済堂ゴルフクラブ旧コース３番ホールである。距離は139ヤード。８番アイアン、ボールともにゼクシオ。保険に加入していてよかった。スコアは聞かないで～。



古希

十勝医師会 会長　大庭（おおば）　滋理（しげり）

私は昭和31年生まれなので今年は数え年で70歳になります。

これを「古希」と申しますが「人生七十古来稀なり」ということばに由来しております。出典はてっきり孔子かと思っていましたが、今回調べてみると私の勘違いでした。孔子の言っている70歳は「七十にして心の欲する所に従えども矩(のり)を踰(こ)えず」すなわち自分の思い通りに行動しても道を踏み外すことがなくなった、ということです「従心」と称します。「四十にして惑わず」の「不惑」は有名ですね。

では「古希」の出典は何でしょうか？唐の詩人である杜甫の詩の一節でした。これには前文があり、「酒債は尋常、行く処に有り」すなわち酒代のつけは私が行くいたるところにあるが、70年生きる人は古くから稀である、となります。つまり、いまのうちにたくさん飲んで楽しもう、という歌なのです。

杜甫は８世紀の盛唐の人でありますが、その当時は平均寿命も若かったと思われます。杜甫自身も享年59歳で亡くなっています。はやく酒を飲んでおこうという気持ちもわかる気がしますね。この享年というのも数え年のことです。

最近の若い人は数え年齢と満年齢の区別がつかないようですね。例えば12月31日に生まれた人はその時点で数え年１年目すなわち数え１歳です。年が明けて元旦になると数え２年目すなわち翌日には数え２歳となります。そしてその年の12月31日になると誕生日で満１歳となるわけです。数え年齢は１月１日で、満年齢は誕生日に１歳増えるわけです。

「古希」となり、ひさしぶりに杜甫や李白の作品に接したい今日この頃です。